ヒブ感染症（インフルエンザ菌ｂ型）予防接種の説明

接種対象年齢	生後２か月から５歳に至るまで
望ましい接種開始月齢	生後２か月以上７か月に至るまで
ワクチンの種類	不活化ワクチン ※このワクチンは製造の初期段階にウシの成分が使用されていますが、その後の精製工程を経て、製品化されています。理論上の TSE（伝達性海綿状脳症）のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人が TSE にかかる可能性はほとんどないものと考えられています。
予防する病気	体の中で最も大切な部分といえる脳や背髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こる病気が髄膜炎です。髄膜炎には、細菌が原因の「細菌性髄膜炎」と細菌以外（ウイルス）が原因の「無菌性髄膜炎」があります。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの他の症状と似ているため、早期に診断することはとても難しい病気です。乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌ｂ型」という細菌で略して「ヒブ」と呼ばれています。冬に流行するインフルエンザとは異なり、ヒブは乳幼児に感染しても抗体（免疫）ができず、繰り返し感染することがあります。ヒブによる細菌性髄膜炎は５歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後３か月から２歳に至るまではかかりやすいので注意が必要です。日本では年間約４００人が発症しており、約１１％が予後不良と推定されています。この髄膜炎以外にも敗血症、肺炎などの重篤な感染症や中耳炎・副鼻腔炎・気管支炎などの気道感染症を引き起こします。
接種回数	●標準的な接種 **接種開始月齢：生後２か月以上７か月に至るまで** 初回はそれぞれ２７日以上あけて３回 ※２回目および３回目は１歳未満までに終了させる ※２回目および３回目が１歳を超えた場合は行わない（追加接種は可能） 追加は初回の３回目終了後７か月以上あけて１回 ※初回の２回目あるいは３回目が１歳未満までに終了せず、１歳以降に追加接種を行う場合は、初回の１回目あるいは２回目の終了後２７日以上あけて行う ２７日から５６日までの間隔　２７日から５６日までの間隔　７～１３か月の間 初回１回目 → 初回２回目 → 初回３回目 → 追加１回 ※医師が必要と判断した場合には、初回接種を 20 日以上の間隔で接種することができます。 **接種開始月齢：生後７か月に至った日の翌日から１２か月に至るまで** 初回は２７日以上あけて２回 ※２回目は１歳未満までに終了させる ※２回目が１歳を超えた場合は行わない（追加接種は可能） 追加は初回２回目終了後７か月以上あけて１回 ※初回の２回目が１歳未満までに終了せず、１歳以降に追加接種を行う場合は、初回の１回目の終了後２７日以上あけて行う ２７から５６日間隔　７～１３か月の間 初回１回目 → 初回２回目 → 追加１回 ※医師が必要と判断した場合には、初回接種を 20 日以上の間隔で接種することができます。 **接種開始年齢：生後１２月に至った日の翌日から６０月に至るまで** １回接種　１回
注意事項	初回接種の開始時の月齢ごとに接種方法が異なります。
副反応	注射部位の発赤（42.4～45.9%）、腫脹（99～23.1%）、硬結（13.9～21.5%）、疼痛（2.5～9.1%）、全身反応は不機嫌（8.5～23.0%）、食欲不振（4.1～13.2%）、発熱（1.6～4.1%）などが見られます。
備考	各医療機関に予約の有無や時間を確認してください。 必ず体温を測って、予診票と母子健康手帳を持っていきましょう。